

[平成28年度設置]

計画の区分：学部学科の設置

注1

認可

東京医療学院大学 保健医療学部 看護学科

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人常陽学園
平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名	事務局長	サトウ	タツオ
		佐藤	達生
電話番号	042-373-8118		
（夜間）	042-373-8118		
F A X	042-373-8111		
e-mail	t-sato@u-ths.ac.jp		

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学部名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学新設の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

保健医療学部

<看護学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1～4
2. 授業科目の概要	5～16
3. 施設・設備の整備状況、経費	17
4. 既設大学等の状況	18
5. 教員組織の状況	19～30
6. 留意事項等に対する履行状況等	31～33
7. その他全般的事項	34～37

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人常陽学園

(2) 大学名

東京医療学院大学

(3) 大学の位置

〒206-0033
東京都多摩市落合4-1-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ワタナベ ケンジ) 渡邊 賢二 (平成22年9月16日就任)		
学長	(サクマ ヤスオ) 佐久間 康夫 (平成24年4月1日就任)		
学部長	カトウ マサカツ 加藤 昌克 (平成28年4月1日就任)		
学科長等	サクライ ミヨコ 櫻井 美代子 (平成28年4月1日就任)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
保健医療学部 看護学科 学士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	4年	80人	年次一人	320人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	80人 () [-]		80人 () [-]		() () []		() () []		1.05倍	
志願者数	158 () [-]	() [-]	467 () [-]	() [-]	() []	() []	() []	() []		
受験者数	140 () [-]	() [-]	417 () [-]	() [-]	() []	() []	() []	() []		
合格者数	128 () [-]	() [-]	208 () [-]	() [-]	() []	() []	() []	() []		
B 入学者数	78 () [-]	() [-]	91 () [-]	() [-]	() []	() []	() []	() []		
入学定員超過率 B/A	0.97		1.13							

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	78 [-] (-)	[-] (-)	91 [-] (-)	[-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		78 [-] (-)	[-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次	/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
4年次	/		/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
計	78 [-] (-)	[-] (-)	169 [-] (-)	[-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成28年度 入学者	78 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成29年度	0 人	0 人		
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
平成29年度 入学者	91 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	人	平成30年度	人	人		%
			平成31年度	人	人		
平成31年度 入学者	人	人	平成31年度	人	人		%
合 計	169 人	0 人					0.00 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<保健医療学部 看護学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養分野	ものの見方・考え方	哲学	1前	2							兼1	
		科学と技術	1後	1							兼1	
		歴史学	2前	1							兼1	
		倫理学	2前	1							兼1	
		身体論	1前	1							兼1	
		生命倫理	3前		1						兼1	
		情報と人間	2前	1							兼1	
		情報活用演習	3前		1						兼1	
	生活と文化	家族と社会	3前		1						兼1	
		文学の中の人間	3前		1						兼1	
		法と人権	2後		1						兼1 兼2	
		生活と経済学	3前		1						兼1	
		文化と健康	1後		1						兼1	
		東京の中の多摩を知るセミナー	1後	1							兼1	
	人間と環境	芸術論	4後		1						兼1	
		生物と進化	1前		1						兼1	
		生命科学	1後	1							兼1	
		物理学	1前		1						兼1	
	グローバルコミュニケーション	環境科学	4後		1						兼1	
		コミュニケーション論	1前	1							兼1	
		日本語表現	1後	1							兼1	
		英語Ⅰ（読む・書く基礎Ⅰ）	1前	1							兼1	
		英語Ⅱ（読む・書く基礎Ⅱ）	1後	1							兼1	
		英語Ⅲ（医療英語）	2前	1							兼1	
		英語Ⅳ（日常会話）	2後	1							兼1	
		英語Ⅴ（英語論文解読）	3前		1						兼1	
		韓国語（基礎会話）	4後		1						兼1	
		異文化体験セミナー	4前		1						兼1	
大学における学び	学習と教育	1前	1							兼1		
	スタディースキルセミナー	1前		1		2		1 2			共同	
	問題解決技法	3前		1				1	2		共同	
	ボランティアワークセミナー	3前		1		1		1	2		共同	
専門基礎分野	形態機能学Ⅰ	1前	1							兼1		
	形態機能学Ⅱ	1前	1							兼1		
	形態機能学Ⅲ	1後	1							兼1		
	形態機能学Ⅳ	1後	1							兼1		
	生化学（栄養学含）	1前	1							兼1		
	病理学	1後	1							兼1		
	臨床薬理学	2前	1							兼1 兼3		
	感染免疫学	1後	2							兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数				専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手			
専門基礎分野	専門基礎科目	診断・治療学Ⅰ	2前	2								兼1 兼3	オムニバス
		診断・治療学Ⅱ	2前	2								兼1 兼2	
		診断・治療学Ⅲ	2後	2								兼2	
		臨床心理学	3前	1								兼1	
		医療と法	2前	1								兼1 兼2	
		保健統計学	3前		1							兼1	
		疫学	3前		1							兼1	
		生涯発達論	1後	2								兼1	
		社会保障論	2後	1								兼1	
チーム医療論	3前	1								兼1			
専門分野	看護の専門職性の発展の基礎	専門職の世界	1前	1			4	1	3	2		共同	
		セルフディプロップメント	1前	1			4	1	3	2		共同	
		キャリアディプロップメント	2後	1			2 3	1	3	1 0		共同	
		医療チーム内のマネジメント	3前	1			3 2	1	5	1		共同	

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数				専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
専門分野	医療以外の他職種との交流と発展	4前	1			2	1 0	1	2		共同	
	キャリアマネジメント論	4前		1		1		2 1	1		共同	
	基礎看護学概論	1前	1			1					共同	
	看護学援助論	1前	1				1					
	看護学技術論	1前	1			1						
	基礎看護学方法論Ⅰ（生活援助技術）	1前	1			1			1			
	基礎看護学方法論Ⅱ（フィジカルアセスメント）	1後	1			1					共同	
	基礎看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術）	1後	1				1				共同	
	基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開）	1後	1					1 0	1		共同	
	基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）	1前	1			2	1	2 1	2		共同	
基礎看護学演習Ⅱ（フィジカルアセスメント）	1後	1			3	1	1 0	1		共同		
基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）	1後	1			2	1	2 1	2		共同		

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数				専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
専門分野	基礎看護学演習Ⅳ (看護の計画的展開)	2前	1			3	1	3 2	1			共同
	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			8 7	3 2	6 5	3		兼1	共同
	看護実践の基盤 基礎看護学実習Ⅱ	1前	1			8 7	3 2	6	3		兼1 兼0	共同

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数				専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
専門分野	基礎看護学実習Ⅲ	2後	2			5	4 3	7	4 3			
	看護実践の基盤											
	成人看護学概論	2前	1			1						
	成人看護学方法論Ⅰ	2前	1			1		1				
	成人看護学方法論Ⅱ	2前	1					0 1			兼1 兼0	
成人看護学方法論Ⅲ	2後	1			0 1		0 1			兼1 兼0		

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数				専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由		教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	
専門分野	看護実践の基盤	成人看護学方法論Ⅳ	2後	1			1 2		1 2			共同
		成人看護学演習	2後	1			1 2		2	2 1		共同
		成人看護学実習Ⅰ	3前~4前	3			1 2	1	2	1 0	2	共同
		成人看護学実習Ⅱ	3前~4前	3			1 2	1	2	1 0	2	共同
		老年看護学概論	2前	1			1					
		老年看護学援助論	2前	1				1				

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数				専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門分野 看護実践の基盤	老年看護学方法論	2後	1				2 1			1			
	老年看護学演習	2後	1				2 1	2 1		1			共同
	老年看護学実習 I	3前~4前	2				2 1	2 1		1			共同
	老年看護学実習 II	3前~4前	2				2 1	3 2	1	1			共同
	小児看護学概論	2前	1				0 1		1 2				共同
	小児看護学方法論 I	2前	1				1		2				共同
	小児看護学方法論 II	2後	1						1				

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数				専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門分野	看護実践の基盤	小児看護学演習	2後	1			1		2				共同
		小児看護学実習	3前~4前	2			2		2				共同
		母性看護学概論	2前	1			1						
		母性看護学方法論 I	2前	1			0 1		1				
		母性看護学方法論 II	2前	1							1		
		母性看護学演習	2後	1			1		1		1		共同
		母性看護学実習	3前~4前	2			1		1		2		共同
		精神看護学概論	2前	1			1						
		精神看護学援助論	2後	2					1				
		精神看護学演習	2後	1			1		1				共同
		精神看護学実習	3前~4前	2			1		1				共同
		在宅看護学概論	3前	1				1					
		在宅看護学方法論	3前	2					2				共同
		在宅看護学演習	3前	1				1	2		1		共同
		在宅看護学実習	3前~4前	2				1	2		1		共同
		医療安全論	3前	1					2				オムニバス
		災害看護学	4後		1								兼1
		看護倫理学	4後		1								兼1
		公衆衛生看護学概論	3前	1									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数				専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
専門分野	統合実習 I	4後	1			7	4 3	8	2 1		共同	
	統合実習 II	4後	2			8	4 3	7 8	2 1		共同	
	助産学概論	3前		1		1						
	基礎助産学 I	3前		2		1						
	基礎助産学 II	3前		2					1			
	健康教育技法	3前		1					1			
	助産診断・技術学概論	3前		1		1						
助産診断・技術学方法論	3前		1					1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門分野	助産診断・技術学演習Ⅰ	3通		2		1			1			共同
	助産診断・技術学演習Ⅱ	3後		1		1			1			共同
	助産診断・技術学演習Ⅲ	3後		1		1			1			共同
	地域母子保健学	3後		1		1			1			共同
	助産管理学 助産学実習	3前 4通		1 11		1 1		1	1			共同
専門分野	看護の探究Ⅰ 看護の探究Ⅱ (基礎看護学領域研究)	1前 4通	1	5		3	1	1 0	1	3		共同
	看護の探究Ⅲ (成人看護学領域研究)	4通		5		1 2	1 2	1 0				共同
	看護の探究Ⅳ (老年看護学領域研究)	4通		5		2 1	2 1		1			共同
	看護の探究Ⅴ (小児看護学領域研究)	4通		5		2		1 2				共同
	看護の探究Ⅵ (母性看護学領域研究)	4通		5		2		1				共同
	看護の探究Ⅶ (精神看護学領域研究)	4通		5		1		1				共同

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門分野	看護の探究Ⅷ (在宅看護学領域研究)	4通		5			1	2	1		共同
	看護の探究Ⅸ (助産学領域研究)	4通		5		1			1		共同

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
科目 87	科目 42	科目 0	科目 129	科目 87	科目 42	科目 0	科目 129	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{0}{129} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考						
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	校地等は多摩市から借用面積：23,347㎡ 期間：H21.4から30年間						
	校舎敷地	13,578㎡	㎡	㎡	13,578㎡							
	運動場用地	5,880㎡	㎡	㎡	5,880㎡							
	小 計	19,458㎡	㎡	㎡	19,458㎡							
	そ の 他	3,889㎡	㎡	㎡	3,889㎡							
	合 計	23,347㎡	㎡	㎡	23,347㎡							
(2) 校 舎	専 用	11,397.97㎡	㎡	㎡	11,397.97㎡	校舎の一部は多摩市から借用面積：4,539.65㎡ 期間：H21.4から30年間						
	(11,397.97㎡)	(㎡)	(㎡)	(11,397.97㎡)								
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体						
	20室	14室	15室	1室 (補助職員 -人)	1室 (補助職員 -人)							
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数								
	保健医療学部 看護学科			28 室								
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	学科単位での特定不能なため、大学全体の数				
		〔うち外国書〕冊	〔うち外国書〕種	電子ジャーナル〔うち外国書〕					点	点	点	
		保健医療学部看護学科	13,285 [2,183] (13,285 [2,183])	129 [38] (129 [38])					14 [14] (14 [14])	168 (168)	5,318 (5,318)	69 (69)
		計	13,285 [2,183] (13,285 [2,183])	129 [38] (129 [38])					14 [14] (14 [14])	168 (168)	5,318 (5,318)	69 (69)
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 体育館は多摩市から借用面積：784.25㎡ 期間：H21.4から30年間					
	436.36㎡		105		30,000							
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要									
	784.25㎡		-									
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書購入費には電子ジャーナル14契約(14タイトル)・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。			
		教員1人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	18,000千円	5,000千円	5,000千円				
	共同研究費等	3,000千円	3,000千円	設備購入費	115,181千円	-千円	-千円					
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次					
		1,930千円	1,630千円	1,630千円	1,630千円	-千円	-千円					
学生納付金以外の維持方法の概要		資産運用収入、雑収入 等										

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	東京医療学院大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
保健医療学部	4	180	-	480		1.16	平成24年度	東京都多摩市落合4-11	
リハビリテーション学科	4	100	-	400		1.17	平成24年度	同上	
理学療法学専攻	4	70	-	280	学士 (理学療法学)	1.21	平成24年度	同上	
作業療法学専攻	4	30	-	120	学士 (作業療法学)	1.07	平成24年度	同上	
看護学科	4	80	-	160	学士 (看護学)	1.05	平成28年度	同上	
(注意) 課程認定等により専攻・コースに入学定員を定めている場合は、専攻・コース別にも記入してください。(履修上の区分として専攻・コースを設けている場合は記入は不要です。)									
(注意) 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。									

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<保健医療学部 看護学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画				変更状況					備考	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月		担当授業科目名
専	講師	和賀 徳子	平成28年4月	スタディスキルセミナー 問題解決技法 ボランティアワークセミナー 専門職の世界 セルフディプロップメント キャリアディプロップメント 医療チーム内のマネジメント 医療以外の多職種との交流と発展 キャリアマネジメント論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 医療安全論※ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅰ 専門職の世界						
専	教授	川守田 千秋	平成28年4月	セルフディプロップメント キャリアマネジメント論 看護学技術論 基礎看護学方法論Ⅱ(フィジカルヘルス) 基礎看護学演習Ⅰ(生活援助技術) 基礎看護学演習Ⅱ(フィジカルヘルス) 基礎看護学演習Ⅲ(臨床看護技術) 基礎看護学演習Ⅳ(看護の計画的展開) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ(基礎看護学領域研究)						
専	教授	佐藤 和子	平成28年4月	スタディスキルセミナー 専門職の世界 セルフディプロップメント キャリアディプロップメント 基礎看護学演習Ⅳ(看護の計画的展開) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅳ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ(基礎看護学領域研究) 看護の探究Ⅲ(成人看護学領域研究)						
専	教授(学科長)	櫻井 美代子	平成28年4月	スタディスキルセミナー 専門職の世界 セルフディプロップメント キャリアディプロップメント 医療チーム内のマネジメント 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学概論 老年看護学方法論 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅳ(老年看護学領域研究)						
専	准教授	久保川 真由美	平成29年4月	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学実習Ⅱ 在宅看護学概論 在宅看護学演習 在宅看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅷ(在宅看護学領域研究)						
専	教授	関根 正	平成29年4月	ボランティアワークセミナー 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学概論 精神看護学演習 精神看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅶ(精神看護学領域研究)						
専	教授	甲斐 寿美子	平成29年4月	医療以外の多職種との交流と発展 小児看護学実習 母性看護学概論 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習Ⅱ 地域母子保健学 看護の探究Ⅴ(小児看護学領域研究) 看護の探究Ⅵ(母性看護学領域研究)	専	教授	甲斐 寿美子	平成29年4月	母性看護学方法論Ⅰ	教育の充実のため、担当科目追加。平成29年1月AC教員審査済。(29)

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	教授	渡邊 淳子	平成28年4月	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学演習Ⅱ(フィンガリアメント) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 助産学概論 基礎助産学Ⅰ 助産診断・技術学概論 助産診断・技術学演習Ⅰ 助産診断・技術学演習Ⅱ 助産診断・技術学演習Ⅲ 助産管理学 助産学実習 看護の探究Ⅵ(母性看護学領域研究) 看護の探究Ⅸ(助産学領域研究)						
専	教授	三輪 のり子	平成28年4月	専門職の世界 セルフディプロップメント 基礎看護学概論 基礎看護学方法論Ⅰ(生活援助技術) 基礎看護学演習Ⅰ(生活援助技術) 基礎看護学演習Ⅱ(フィンガリアメント) 基礎看護学演習Ⅲ(臨床看護技術) 基礎看護学演習Ⅳ(看護の計画的展開) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ(基礎看護学領域研究)						
専	教授		平成29年4月	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学方法論 老年看護学演習 医療チーム内のマネジメント 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅳ(老年看護学領域研究)			後任未定		基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学方法論 老年看護学演習 医療チーム内のマネジメント 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅳ(老年看護学領域研究)	
専	教授	加藤 和子	平成29年4月	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 小児看護学演習 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学実習 医療以外の多職種との交流と発展 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅴ(小児看護学領域研究)						
					専	教授	加藤 和子	平成29年4月	小児看護学概論	教育の充実を図るため担当科目の追加。平成29年1月AC教員審査済(28)
専	准教授	分島 るり子	平成28年4月	専門職の世界 セルフディプロップメント 看護学援助論 基礎看護学方法論Ⅲ(臨床看護技術) 基礎看護学演習Ⅰ(生活援助技術) 基礎看護学演習Ⅱ(フィンガリアメント) 基礎看護学演習Ⅲ(臨床看護技術) 基礎看護学演習Ⅳ(看護の計画的展開) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ(基礎看護学領域研究)						
専	講師	小林(清水)美智子	平成29年4月	キャリアディプロップメント 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学方法論Ⅰ 成人看護学方法論Ⅳ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅲ(成人看護学領域研究)						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	今村 嘉子	平成29年4月	キャリアディプロップメント 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学援助論 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅳ(老年看護学領域研究)						
専	准教授		平成29年4月	医療以外の多職種との交流と発展 基礎看護学実習Ⅰ			後任未定		医療以外の多職種との交流と発展 基礎看護学実習Ⅰ	
				基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅳ(老年看護学領域研究)	専	講師	中村 美幸	平成29年10月	基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅳ(老年看護学領域研究)	
					専	講師	中村 美幸	平成29年10月	キャリアディプロップメント 老年看護学方法論	教育の充実を図るため担当教員の追加。平成29年3月AC教員審査提出済(29)
専	講師	鈴木(原田)久子	平成29年4月	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学実習Ⅱ 在宅看護学方法論 在宅看護学演習 在宅看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅷ(在宅看護学領域研究)						
専	講師	廣瀬 京子	平成28年4月	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学演習Ⅰ(生活援助技術) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学演習 小児看護学実習 医療安全論※ 統合実習Ⅰ 看護の探究Ⅴ(小児看護学領域研究)						
専	講師		平成29年4月	キャリアディプロップメント	専	教授	直成 洋子	平成29年4月	キャリアディプロップメント	
				キャリアマネジメント論	専	講師	中村 美幸	平成29年10月	キャリアマネジメント論	
				基礎看護学方法論Ⅳ(看護の計画的展開) 基礎看護学演習Ⅰ(生活援助技術) 基礎看護学演習Ⅱ(フジ'カルヘルメント) 基礎看護学演習Ⅲ(臨床看護技術) 基礎看護学演習Ⅳ(看護の計画的展開) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ	専	講師	原口真由美	平成29年10月	基礎看護学方法論Ⅳ(看護の計画的展開) 基礎看護学演習Ⅰ(生活援助技術) 基礎看護学演習Ⅱ(フジ'カルヘルメント) 基礎看護学演習Ⅲ(臨床看護技術) 基礎看護学演習Ⅳ(看護の計画的展開) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ	
				基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ	専	教授	直成 洋子	平成29年4月	基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ	
				看護の探究Ⅱ(基礎看護学領域研究)	専	講師	原口真由美	平成29年10月	看護の探究Ⅱ(基礎看護学領域研究)	

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					専	教授	直成 洋子	平成29年4月	成人看護学方法論Ⅰ 成人看護学方法論Ⅳ 看護の探求Ⅲ(成人看護学領域研究)	教育の充実を図るため担当科目の追加。平成28年8月AC教員審査済(29)
					専	講師	原口真由美	平成29年10月	専門職の世界 セルフディプロップメント 基礎看護学方法論Ⅰ(生活援助技術) 基礎看護学方法論Ⅱ(フィジカルアセスメント) 基礎看護学方法論Ⅲ(臨床看護技術) 基礎看護学実習Ⅲ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ	教員組織の充実を図るため担当教員の追加。平成29年6月AC教員審査提出予定(29)
専	講師	関川(吉田)久美子	平成28年4月	専門職の世界 セルフディプロップメント 基礎看護学演習Ⅳ(看護の計画的展開) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 在宅看護学方法論 在宅看護学演習 在宅看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅷ(在宅看護学領域研究)						
専	講師		平成28年4月	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学演習Ⅲ(臨床看護技術) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学方法論Ⅱ 小児看護学演習 小児看護学実習 統合実習Ⅰ	専	講師	田村 三穂	平成28年10月	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学演習Ⅲ(臨床看護技術) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学方法論Ⅱ 小児看護学演習 小児看護学実習 統合実習Ⅰ	平成28年7月AC教員審査済(29)
									小児看護学概論 統合実習Ⅱ 看護の探求Ⅴ(小児看護学領域研究)	教育の充実を図るため担当科目の追加。平成28年7月AC教員審査済(29)
専	講師	井上 聡子	平成28年4月	専門職の世界 セルフディプロップメント 基礎看護学演習Ⅳ(看護の計画的展開) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学援助論 精神看護学演習 精神看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅶ(精神看護学領域研究)						
専	講師	寺岡 歩	平成29年4月	医療チーム内のマネジメント 母性看護学方法論Ⅰ 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習Ⅱ 助産学実習 看護の探究Ⅵ(母性看護学領域研究)	専	講師	寺岡 歩	平成30年4月	医療チーム内のマネジメント 母性看護学方法論Ⅰ 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習Ⅱ 助産学実習 看護の探究Ⅵ(母性看護学領域研究)	
専	助教	武田 真	平成28年4月	問題解決技法 ボランティアワークセミナー 専門職の世界 セルフディプロップメント 基礎看護学方法論Ⅰ(生活援助技術) 基礎看護学方法論Ⅳ(看護の計画的展開) 基礎看護学演習Ⅰ(生活援助技術) 基礎看護学演習Ⅱ(フィジカルアセスメント) 基礎看護学演習Ⅲ(臨床看護技術) 基礎看護学演習Ⅳ(看護の計画的展開) 成人看護学演習 看護の探究Ⅱ(基礎看護学領域研究)						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	助教		平成29年4月	キャリアディプロップメント 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅲ(成人看護学領域研究)	専	講師	迫田 典子	平成29年4月	キャリアディプロップメント 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅲ(成人看護学領域研究)	
					専	講師	迫田 典子	平成29年4月	スタディスキルセミナー 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学方法論Ⅳ	教育の充実を図るため担当教員の追加。平成29年1月AC教員審査済(29)
専	助教	窪島 領子	平成28年4月	医療チーム内のマネジメント キャリアマネジメント論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 在宅看護学演習 在宅看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅷ(在宅看護学領域研究)						
専	助教	内田 裕子	平成28年4月	専門職の世界 セルフディプロップメント 基礎看護学演習Ⅲ(臨床看護技術) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 母性看護学方法論Ⅱ 母性看護学演習 母性看護学実習 基礎助産学Ⅱ 助産診断・技術学方法論 地域母子保健学						
専	助教	渡邊(菅野)幸恵	平成28年4月	医療以外の多職種との交流と発展 基礎看護学演習Ⅰ(生活援助技術) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 母性看護学実習 健康教育技法 助産診断・技術学演習Ⅰ 助産診断・技術学演習Ⅱ 助産診断・技術学演習Ⅲ 助産学実習 看護の探究Ⅸ(助産学領域研究)						
専	助教	大山 裕子	平成28年4月	問題解決技法 ボランティアワークセミナー 医療以外の多職種との交流と発展 老年看護学方法論 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護の探究Ⅳ(老年看護学領域研究)	専	助教	大山 裕子	平成29年1月	問題解決技法 ボランティアワークセミナー 医療以外の多職種との交流と発展 老年看護学方法論 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護の探究Ⅳ(老年看護学領域研究)	

設置時の計画					変更状況					備考	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名		
兼任	講師		平成28年4月	哲学	兼任	講師	田村 未希	平成29年4月	哲学		
				科学と技術					科学と技術		
兼任	講師	大庭 裕介	平成29年4月	歴史学							
兼任	講師	川元 克秀	平成29年4月	倫理学 生命倫理 異文化体験セミナー							
兼任	講師	坂西 友秀	平成29年4月	情報と人間	兼任	准教授	岡島 純子	平成29年4月	情報と人間		
兼任	講師	高柳 良太	平成30年4月	情報活用演習 保健統計学							
兼任	講師	佐藤 麻衣	平成30年4月	家族と社会							
兼任	講師	菊地 暁	平成28年4月	身体論							
兼任	講師	横山 美和	平成30年4月	文学の中の人間							
兼任	講師	鈴木 晃仁	平成30年4月	生活と経済学							
兼任	講師	太田 昌志	平成29年4月	医療と法	兼任	講師	太田 昌志	平成29年4月	医療と法	教育の充実を図るため担当教員の追加。(29)	
					兼任	講師	篠原 亘	平成29年4月	医療と法		
				法と人権	兼任	講師	太田 昌志	平成29年4月	法と人権		教育の充実を図るため担当教員の追加。(29)
					兼任	講師	篠原 亘	平成29年4月	法と人権		
兼任	講師	関 由起子	平成28年10月	文化と健康							
兼任	講師	清水 裕介	平成28年10月	東京の中の多摩を知るセミナー							
兼任	講師	福井 由理子	平成28年4月	生物と進化 生命科学							
兼任	講師	鈴木 みどり	平成28年4月	コミュニケーション論							
兼任	講師	吉岡 有文	平成28年4月	物理学	兼任	講師	杉山 和正	平成28年4月	物理学		
兼任	講師	尾崎 和香子	平成28年10月	日本語表現	兼任	講師	宮田 登紀子	平成29年10月	日本語表現		
兼任	講師		平成28年4月	英語Ⅰ(読む・書く基礎Ⅰ)	兼任	講師	ウィリアム ウエザリー	平成28年4月	英語Ⅰ(読む・書く基礎Ⅰ)		
				英語Ⅱ(読む・書く基礎Ⅱ)					英語Ⅱ(読む・書く基礎Ⅱ)		
				英語Ⅲ(医療英語)					英語Ⅲ(医療英語)		
				英語Ⅳ(日常会話)					英語Ⅳ(日常会話)		
				英語Ⅴ(英語論文読解)					英語Ⅴ(英語論文読解)		
兼任	講師	室屋 正史	平成31年10月	韓国語(基礎会話)							
兼任	講師	浅田 匡	平成28年4月	学習と教育							
兼任	講師		平成28年4月	形態機能学Ⅰ	兼任	講師	阿久津 裕彦 (43)	平成28年4月	形態機能学Ⅰ		
				形態機能学Ⅱ	兼任	講師	岡田 隆夫 (64)	平成28年4月	形態機能学Ⅱ		
				形態機能学Ⅲ	兼任	講師	阿久津 裕彦 (43)	平成28年4月	形態機能学Ⅲ		
				形態機能学Ⅳ	兼任	講師	岡田 隆夫 (64)	平成28年4月	形態機能学Ⅳ		
兼任	講師	高橋 美由紀	平成28年4月	生化学(栄養学含)							
兼任	講師	田中 秀邦	平成28年10月	病理学							

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	講師	丸山 敬	平成29年4月	臨床薬理学	兼任	講師	丸山 敬	平成29年4月	臨床薬理学	教育の充実を図るため担当教員の追加。(29)
					兼任	講師	淡路 健雄	平成29年4月	臨床薬理学	
					兼任	講師	鈴木 正彦	平成29年4月	臨床薬理学	
兼任	講師		平成28年10月	感染免疫学	兼任	講師	小林 信治	平成29年10月	感染免疫学	
兼任	講師	草間 芳樹	平成29年4月	診断・治療学Ⅰ	兼任	講師	草間 芳樹	平成29年4月	診断・治療学Ⅰ	教育の充実を図るため担当教員の追加。(29)
					兼任	教授	武田 淳史	平成29年4月	診断・治療学Ⅰ	
					兼任	講師	吉本 賢隆	平成29年4月	診断・治療学Ⅰ	
兼任	講師		平成29年4月	診断・治療学Ⅱ	兼任	講師	石川 源	平成29年4月	診断・治療学Ⅱ	
					兼任	講師	伊藤 文之	平成29年4月	診断・治療学Ⅱ	
兼任	講師	渡辺 修一郎	平成29年10月	診断・治療学Ⅲ※						
兼任	講師		平成29年10月	診断・治療学Ⅲ※	兼任	教授	上田 諭	平成29年4月	診断・治療学Ⅲ	
兼任	講師	豊田 英子	平成30年4月	臨床心理学						
兼任	講師	野寺 誠	平成30年4月	疫学						
兼任	講師	森岡 真梨	平成28年10月	生涯発達論						
兼任	講師	入江 公康	平成29年10月	社会保障論						
兼任	講師	守谷 明子	平成30年4月	チーム医療論						
兼任	講師	三浦 まゆみ	平成31年4月	災害看護学						
兼任	講師		平成29年4月	成人看護学方法論Ⅱ	専	講師	迫田 典子	平成29年4月	成人看護学方法論Ⅱ	
兼任	講師		平成29年10月	成人看護学方法論Ⅲ	専	教授	直成 洋子	平成29年4月	成人看護学方法論Ⅲ	
					専	講師	迫田 典子	平成29年4月	成人看護学方法論Ⅲ	
兼任	講師	錦木 陽子	平成31年10月	芸術論						
兼任	講師	三上 岳彦	平成31年10月	環境科学						
兼任	講師	福士 公代	平成31年10月	看護倫理学						
兼任	講師	網野 寛子	平成31年10月	公衆衛生看護学概論						

設置時の計画				変更状況				備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	
専任補充					専	教授	平成30年4月	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 専門職の世界 セルフディプロップメント スタディスキルセミナー キャリアディプロップメント 母性看護学演習 母性看護学実習 助産診断・技術学演習Ⅰ 助産診断・技術学演習Ⅱ 助産診断・技術学演習Ⅲ 地域母子保健学 助産学実習 看護の探究Ⅸ(助産学領域研究)
					専	准教授	平成30年4月	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 専門職の世界 セルフディプロップメント 母性看護学演習 母性看護学実習 助産診断・技術学演習Ⅰ 助産診断・技術学演習Ⅱ 助産診断・技術学演習Ⅲ 地域母子保健学 助産学実習 看護の探究Ⅸ(助産学領域研究)
								医療チーム内のマネジメント
				兼任	講師	安藤 郁子	平成28年4月	基礎看護学実習Ⅱ
				兼任	講師	林 菜保美	平成29年5月	基礎看護学実習Ⅰ

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
12 名	6 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2)-② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
9	4	9	6	28	9	3	8	5	25	9 10	4	11 9	5 6	29
(5)	(1)	(5)	(5)	(16)						[]	[]	[2]	[Δ1]	[1]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(A)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
教授65歳 准教授63歳 その他60歳	7 名	9 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
1	講師	荻原 康子	必修	医療チーム内のマネジメント	①	一身上の都合により専任教員（荻原康子講師）が就任辞退。 (28)
			必修	基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）	①	
			必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	
			必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
			必修	基礎看護学実習Ⅲ	①	
			必修	小児看護学方法論Ⅰ	①	
			必修	小児看護学方法論Ⅱ	①	
			必修	小児看護学演習	①	
			必修	小児看護学実習	①	
必修	統合実習Ⅰ	①				
2	教授	石川みち子	必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	ご本人（石川みち子教授）のご逝去により就任不能。 (29)
			必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
			必修	基礎看護学実習Ⅲ	①	
			必修	老年看護学方法論	①	
			必修	老年看護学演習	①	
			必修	医療チーム内のマネジメント	①	
			必修	老年看護学実習Ⅰ	①	
			必修	老年看護学実習Ⅱ	①	
			必修	統合実習Ⅰ	①	
			必修	統合実習Ⅱ	①	
必修	看護の探求Ⅳ（老年看護学領域）	①				
3	准教授	中込由美	必修	医療以外の多職種との交流と発展	①	一身上の都合により専任教員（中込由美准教授）が就任辞退。 (29)
			必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	
			必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
			必修	基礎看護学実習Ⅲ	①	
			必修	老年看護学演習	①	
			必修	老年看護学実習Ⅰ	①	
			必修	老年看護学実習Ⅱ	①	
			必修	統合実習Ⅰ	①	
			必修	統合実習Ⅱ	①	
			必修	看護の探求Ⅳ（老年看護学領域研究）	①	
4	講師	穴田 博美	必修	キャリアディプロップメント	①	一身上の都合により専任教員（穴田博美講師）が就任辞退。 (29)
			必修	キャリアマネジメント論	①	
			必修	基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開）	①	
			必修	基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）	①	
			必修	基礎看護学演習Ⅱ（フィンガリング）	①	
			必修	基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）	①	
			必修	基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開）	①	
			必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	
			必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
			必修	基礎看護学実習Ⅲ	①	
			必修	成人看護学演習	①	
			必修	成人看護学実習Ⅰ	①	
			必修	成人看護学実習Ⅱ	①	
			必修	統合実習Ⅰ	①	
			必修	統合実習Ⅱ	①	
必修	看護の探求Ⅱ（基礎看護学領域研究）	①				
5	助教	厚澤 博美	必修	キャリアディプロップメント	①	一身上の都合により専任教員（厚澤博美助教）が就任辞退。 (29)
			必修	基礎看護学実習Ⅲ	①	
			必修	成人看護学演習	①	
			必修	成人看護学実習Ⅰ	①	
			必修	成人看護学実習Ⅱ	①	
			必修	統合実習Ⅰ	①	
			必修	統合実習Ⅱ	①	
必修	看護の探求Ⅲ（成人看護学領域研究）	①				

合計 (A)				後任補充状況の集計 (B)							
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
5	人	必修	54 科目	必修	54 科目	必修	0 科目	必修	0 科目		
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	54 科目	計	54 科目	計	0 科目	計	0 科目		

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退 (未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退 (未就任) の理由」に就任辞退の理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
						該当なし			
			合計 (C)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

上記(3)-①・(3)-②の合計

合計(A)+(C)				後任補充状況の集計(B)+(D)							
辞任等した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)			
5	人	必修	54 科目	必修	54 科目	必修	0 科目	必修	0 科目		
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	54 科目	計	54 科目	計	0 科目	計	0 科目		

(注)・ 就任辞退(未就任)及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

1、当該教員の担当科目10科目うち7科目の開講時期は平成29年4月、10月、平成30年4月、及び平成31年10月と授業開講前であったため、学生にはシラバスの配布をもって新任の専任教員に変更する旨を周知する予定である。平成28年4月開講の基礎看護学実習Ⅰは共同授業の科目であり、他の専任教員が科目担当することができるため学生の学修への影響は無いと判断している。平成28年4月開講の基礎看護学実習Ⅱについては、兼任講師を就任させるため、学生の学修への影響は無いと判断している。平成28年度4月開講科目の学生への周知は、シラバスの修正版を学生に配布することで周知する予定である。(28)

2、当該石川教授の平成29年度担当科目のうち基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ及び基礎看護学実習Ⅲは共同科目であり主担当ではないため他の専任教員を配置。老年看護学方法論及び老年看護学演習については、後期開講であり、既に就任している教授及び助教、平成29年10月就任予定の後任の講師が担当するため学生の学修への影響はないものとする。また、平成29年度のシラバス等においても既に名前の記載がないため学生の混乱はない。(29)

3、当該中込准教授の平成29年度担当科目のうち基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ及び基礎看護学実習Ⅲは共同科目であり主担当ではないため他の専任教員を配置。老年看護学演習については後期開講であり、既に就任している教授及び助教、平成29年10月就任予定の後任の講師が担当するため学生の学修への影響はないものとする。また、平成29年度のシラバス等においても既に名前の記載がないため学生の混乱はない。(29)

4、当該穴田講師の担当科目のうち平成29年度に開講する10科目のうち9科目は共同科目であり主担当ではないため、他の専任教員を配置。基礎看護学方法論Ⅳ(看護の計画的展開)については、後期開講であり、既に就任している助教及び平成29年10月就任予定の後任の講師が担当するため学生の学修への影響はないものとする。また、平成29年度のシラバス等においても既に名前の記載がないため学生の混乱はない。(29)

5、当該厚澤助教の平成29年度担当科目のうちキャリアディプロップメント及び基礎看護学実習Ⅲについては共同科目であり主担当ではないため、他の専任教員を配置。成人看護学演習については後期開講であり、既に就任している教授及び講師、平成29年4月より新たに採用した教授及び後任の講師が担当するため学生の学修への影響はないものとする。また、平成29年度のシラバス等においても既に名前の記載がないため学生の混乱はない。(29)

(注)・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>設 置 時 (平成27年12月)</p>	<p>・臨地実習を行うにあたっては、継続的に教育を行い得る観点からの教員配置に関する方針を定めた上で、採用することとしている専任教員を臨地実習の開始までに確実に配置すること。</p>	<p>留意事項</p> <p>・臨地実習を行うにあたっては、各専門分野の専任教員が責任を持って実習指導を行えるよう、年度ごとの実習計画を策定し、実習が始まるまでに実習計画に沿った担当予定教員が就任するよう計画している。</p> <p>残念ながら、平成28年4月より開講の基礎看護学実習Ⅰ及び基礎看護学実習Ⅱを担当する予定であった専任教員1名が急な自己都合により就任を辞退したため、後任の専任講師を配置する。直近の平成28年6月に教員審査を受け、10月に採用する予定となっている。</p> <p>学科開設当初の1年目、2年目は、開講される講義科目及び実習の科目数が少なく専任教員の担当科目に余裕があるため、今年度の基礎看護学実習Ⅰは当初より計画している他の13名の専任教員が担当することで巡回指導を含む授業実施に支障はない。基礎看護学実習Ⅱについては、今年度のみ兼任講師を1名配置する。(28)</p> <p>平成28年度に開講した基礎看護学実習Ⅰ及び基礎看護学実習Ⅱについては、前年度の計画通りに実施している。平成29年度は学年進行により基礎看護学実習Ⅰ及び基礎看護学実習Ⅱに加えて基礎看護学実習Ⅲが開講するが、現在就任している専任教員25名から各実習施設の担当経験及び領域実習との関連に鑑み適切に配置している。平成29年4月に精神看護学、小児看護学、母性看護学の教授と在宅看護学の准教授が就任しており、各領域分野の実習指導の体制が整備された。また、設置計画当初に助手3名採用を計画していたが、平成30年度に向けて各領域実習の教育の質の向上と継続性を考慮し専任教員4名として採用する方針で検討を行っている。(29)</p>	<p>・左記のとおり定めた教員配置に関する方針を確実に履行していくため、専任教員に関する管理を徹底する。(28)</p>

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未 履 行 事 項 に つ い て の 実 施 計 画
<p style="text-align: center;">設 置 時 (平成27年12月)</p>	<p>・ 臨地実習等のために採用することとしている3名の助手に対して、「FDプログラム」による教育を実施することとしているが、その内容が大学教育の質を確保する十分なものとなるよう努めるとともに、万全の体制を構築して実施すること。関連して、助手に対し担当する領域の学会への参加を義務付けるとしているが、将来助教となる助手の主体的な研究活動に配慮する上では、学会へ参加する機会を提供する程度の支援が望ましいので留意すること。</p>	<p>留意事項</p> <p>・ 平成29年4月着任を目処に採用予定の3名の助手については、平成28年4月現在、候補者を選考中である。「関連する領域の学会参加を義務づける」という点については、助手の主体的な研究活動ができるように支援する内容に改める。(28)</p> <p>・ 今後臨地実習の教育の充実と質の向上に鑑み、専任助手3名の代わりに専任教員4名を採用する方針で検討を行っている。専任教員に対するFD研修会に専任教員採用予定者も参加することとする。平成28年度は6月、8月、2月の3回実施し、2月のFD研修会には平成29年4月に就任の教員も参加した。(29)</p>	<p>・ 助手に対するFDプログラムについて、平成28年5月現在は、候補者を選考中のため未実施であるが、看護学科に設置するFDプロジェクト委員会において、設置時の計画に基づき実施計画を検討する。(28)</p>
	<p>・ 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について着実に実施すること。</p>	<p>留意事項</p> <p>・ 教育研究の継続性、看護教育の分野の専門性及び教員組織の活性化に留意し、完成年度以降に段階的な高年齢の教員の割合の是正を図る。また、年齢構成バランス等の教員組織編成の将来構想を学内で検討し、若手教員の採用・育成および中堅職員の採用を行う。(28)</p> <p>就任辞退の後任補充および新規採用の教員を採用するにあたり、定年規程の趣旨を踏まえ選考している。</p> <p>平成28年10月に50歳代の講師1名、平成29年4月に50歳代の教授1名および40歳代の講師1名を採用している。</p> <p>平成29年10月に50歳代の講師2名を採用予定である。(29)</p>	
	<p>・ 実習統括責任者として専任教員の中から1名配置することとしているが、臨地実習中の事故発生時に迅速に対応できる適任者を配置するため、リスクマネジメントに責任を有する組織に所属する専任教員を配置することが望ましいと考えるので検討すること。</p>	<p>その他の意見</p> <p>・ 実習統括責任者である学科長は、法人本部と意思の疎通を図るために開催している大学運営協議会及び学長の諮問機関である教授会の構成員となっており、リスクマネジメントに関する諸規則等の整備について意見を述べる体制とした。(28)</p> <p>昨年度の報告内容にて対応をしている(29)</p>	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調査時 (平成29年2月)	・保健医療学部看護学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想を策定し、着実に実行すること。	改善意見	・就任前に辞退した専任教員の後任を採用する際、教育研究の継続性を考慮したうえで比較的年齢の低い中堅層の教員を平成29年4月に2名採用している。 平成29年10月には50歳代の教員を2名採用予定であり、教員組織の活性化に留意している。 また完成年度後は段階的に高年齢教員の割合の是正を図り、年齢構成バランスのとれた教員組織を編成していく。(29)
設置計画履行状況 調査時 (平成29年2月)	・保健医療学部リハビリテーション学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想を策定し、着実に実行すること。	改善意見	・教育研究の継続性と継承及び発展に支障が生じないようにするとともに、高齢者の教員の割合の是正を図るために、若手教員の育成や中堅教員の採用を行う。 平成28年度の年度末に定年を超えた専任教員が3名退職した。 定年規程の趣旨をふまえ、平成28年10月に51歳の教授、平成29年4月に60歳の教授および30歳代を中心とした3名の助教を新たに採用している。 リハビリテーション学科の専任教員30名となり、定年を超えて採用している専任教員は5名となった。(29)

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<保健医療学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>報告年度（平成28年度）</p> <p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本学は平成24年4月9日の教授会において、FD委員会の設置を決議し、平成24年5月30日に第1回目の委員会を開催している。尚、当該委員会については、平成27年4月にFD・SD委員会と改組している。 FD・SD委員会運営細則で定めている審議事項は以下のとおりである。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育内容及び方法等の改善のための企画及び実施に関する事項 (2) 教育にかかる教育支援に関する事項 (3) 多様な授業方法の実施、分析及び結果に基づく授業改善に関する事項 (4) 事務職員の資質向上のための企画及び実施に関する事項 (5) FD・SD活動に係る情報収集や調査・研究に関する事項 (6) その他前各項に関連する事項及び委員長が必要と認める事項 <p>平成28年4月看護学科開設に伴い、2名の看護学科専任教員を委員に加えている。又、看護学科においては助手に対するFD計画の立案及び運営並びに学位取得支援等の学科独自のFD計画の策定のためのFDプロジェクト委員会の設置を予定している。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成28年度は、5月9日の開催を予定している。尚、平成27年度の実績は以下のとおりである。 第1回 平成27年6月8日 出席6名（教員6名） 欠席1名（事務1名） <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成28年度は、5月9日の開催を予定している。尚、平成27年度の実績は以下のとおりである。 審議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成27年度FD活動の実施について <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生授業アンケートの作業担当者の選出及び実施内容 ・ 教員による相互講義参観の作業担当者及び実施内容 ・ 平成27年度SD活動の実施について ・ 自己点検評価書の作成 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開学前の看護学科専任教員就任予定者説明会 <ul style="list-style-type: none"> ○第1回 （2016/1/16） 本学の看護学科設置計画を履行していくうえで、新任の専任教員に看護学科設置認可申請書をもととして設置の趣旨及び目的等の説明を行い理解の共有を深めた。又、シラバス及び学年歴の説明と意見交換会を行った。 ○第2回 （2016/3/14） 授業開始に向けての教務関係等に関する説明を教員ハンドブック及びキャンパスガイドを基に行った。又、学生指導についての意見交換会を行った。 ・ 開学後の説明会（2016/4/4） <ul style="list-style-type: none"> ○事務局によるオリエンテーション 本学の諸規程及び運用マニュアル等の教育研究活動を行っていくうえで必要な諸手続及び学修支援ネットワークシステム等の説明、並びに事務局各課の業務内容の説明を行った。 <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開学前の看護学科専任教員就任予定者説明会 現在、採用が確定している専任教員を対象し、看護学科設置準備室長を議長として実施した。尚、当説明会には理事長及び学長が出席している。 ・ 開学後の説明会 入学式終了後、平成28年度採用専任教員全員に対して、事務局各課の課長職職員からの説明及び質疑応答を行った。
--

c 開催状況（教員の参加状況含む）

・開学前の全体会議

- 第1回 : 23名参加（うち、教員18名）
- 第2回 : 23名参加（うち、教員17名）

・開学後の説明会

- 事務局によるオリエンテーション 14名参加（内、教員14名）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

平成28年4月4日に入学式を挙行し、学生ガンダンス、履修登録及び前期講義を支障なく開始している。改善への日々の取り組みの一環として、平成28年4月8日に第1回看護学科会議を開催し、各種委員会への委員の選出及び国家試験対策に向けた活動計画を立案決定した。今後、全学的に行っているFD・SD委員会及びFD計画に看護学科も参加していく予定である。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

実施の時期及び方法について、平成27年度の実施内容に準じて、FD・SD委員会にて策定する。

尚、リハビリテーション学科については以下のとおり実施している。

- ・前期は、平成27年7月6日～13日の期間に13授業を対象に実施した。
- ・後期は、平成28年1月16日～23日の期間に42授業を対象に実施した。

b 教員や学生への公開状況、方法等

開示方法について、平成27年度の実施内容に準じて、FD・SD委員会にて策定する。

尚、リハビリテーション学科については以下のとおり実施している。

- ・専任教員及び非常勤講師 : 前期の個別結果報告の送付している。
- ・学生 : 前期実施分を授業科目ごとに平均データ及びFD委員会分析により設定した群間比較データを学内掲示板に掲示した。後期実施分については現在集計中である。

報告年度（平成29年度）

①実施体制

a. 委員会の設置状況

- ・看護学科では大学のFD・SD委員会に教員2名が委員として加わる一方で、看護学科独自にFD・SDプロジェクト委員会を設置し、「看護実践能力向上に向けた学修支援」に関するFD研修会を企画している。

b. 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・委員会は年6回（5/29.10/25.12/22.12/27.1/26.3/8）開催し、毎回委員である教員全員（5名）が参加した。

c. 委員会の審議事項

- ・平成28年度の看護学科独自のFD研修会の企画検討
- ・FD研修会の振り返り
- ・学生の授業評価アンケート実施方法について（基礎看護学5科目）
- ・平成28年度の委員会活動自己点検評価について

②実施状況

a. FD研修会の実施内容及び実施方法

第1回研修会（平成28年6月29日）

「大学の使命と看護学教育に期待すること」というテーマで、看護学科に着任した看護教員と学長とのフリーディスカッション形式で実施した。主な内容は、大学教員としての教育研究活動の重要性と教育環境に関する事柄であった。参加者からは、学長と直接意見交換ができたことによる手応えと本学の看護学教育に対する期待が明確となり、大変有意義だったとの意見が聞かれた。

第2回研修会（平成28年8月1日）

着任した教員の約半数が研究助成金の申請書を作成した経験がなかったことから10月の提出を控えて「初心者向け科研費申請書の書き方のコツ」をテーマに講演会形式で実施した。主な内容は、①採択未経験者の特徴 ②審査の要点 ③申請に向けた戦略であり、講演の後の質疑応答では予算の書き方など具体的な質問が多かった。

第3回研修会（平成29年2月15日）

「教育理念と看護学科カリキュラムの特色」をテーマに、二人の講師から「大学における看護学教育のモデル・コアカリキュラム」「看護の専門職性の発展の基盤」についての講演と、3グループ編成によるワークショップを実施した。完成年度に向けて本学の看護学教育をどのように展開していくのかについて活発な意見交換が行われ、参加した教員間でのコンセンサスが得られた。

b. 開催状況（教員の参加状況含む）

- 第1回 : 学長が講演（看護学科教員14名参加）
- 第2回 : 看護学科助産学教授が講演（看護学科教員12名参加）
- 第3回 : 看護学科教授と講師が講演（看護学科教員13名、4月着任予定看護学科教員4名、リハビリ学科教員2名、事務職員7名 計26名）

c. 実施結果を踏まえた授業改善への取り組み状況

- ・第3回FD研修会のワークショップで「本学の教育理念を”看護の専門職性の発展の基盤”科目にどのように反映させていくか」あるいは「学生の主体的学習態度を育てるために授業にどのような工夫を取り入れているか」など授業改善に向けた意見交換が行われた。

③学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a. 実施の有無及び実施時期

- ・大学のFD・SD委員会の計画に沿って看護学科でも前期は1科目、後期は5科目実施している
- ・前期：7月31日 後期：1月24日、1月30日、1月31日、2月1日、2月2日

b. 教員や学生への公開状況、方法等

- ・学生の授業評価アンケート結果は、対象となった各科目の教員に送付され、授業改善に向けた参考資料として活用している。また学生に向けては、アンケート全体に対するコメントを掲示している。

- (注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)
- (3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学は、保健医療を通して社会に貢献すべく「人に優しい」をモットーとする「技術と心のバランスの取れた人材の育成」を目指す基本理念のもとに、(ア)幅広い教養と高い倫理観を備え、社会の変化に応え得る専門知識と技術を有し、(イ)医療機関や福祉施設等において活躍するとともに、(ウ)地域における保健医療のリーダーとして貢献できる人材を育成することを目的として「人に優しく、社会に貢献できる人材の育成」を建学の精神とする大学であり、「仁愛・知識・技術」を教育理念としている。

この教育理念を実現するために、先ず、幅広い教養と高い倫理観を修得する教育を行う。その上で、対象者の立場を理解し「人に優しく思いやりのある心」での行動や態度を為すための教育を行う。それと同時に、看護及び助産に関する基礎から応用に至る専門知識と技術を身につけ、他職種と協働するためのコミュニケーション能力及び生涯にわたって学修するという心構えを身につけるための教育を行い、これにより、看護及び助産の専門職業人として「人に優しく、社会に貢献できる人材の育成」を目指している。(28)

本学では、建学の精神である「人に優しく、社会に貢献できる人材の育成」を受けて、教育理念を「仁愛・知識・技術」として掲げている。すなわち保健医療活動を通して一人ひとりの患者さんの心に寄り添い、専門知識と技術を基本に社会が抱える問題を解決する能力を有する「技術と心のバランスの取れた人材」を育てることである。一方、少子・高齢社会が進む我が国において人々の多様化する健康ニーズに対応できる看護師と出生率向上を支援する助産師の育成は極めて重要な課題である。このような社会の要請を受けて本学保健医療学部を設置した看護学科では、「(a)幅広い教養と高い倫理観を備え、社会の変化に応え得る専門知識と技術を有し、(b)医療機関や福祉施設等において活躍するとともに、(c)地域における保健医療のリーダーとして貢献できる人材の育成」を目的としている。(29)

平成27年12月の設置認可後、基本計画に沿った形で設置の趣旨及び目的に向かって運営している。

学生募集について、設置認可後に入学案内及び募集要項に本学の建学の精神、教育理念及びアドミッションポリシーを明示して資料請求者及び高等学校に配付し、推薦入学試験(平成28年1月24日)、一般一期入学試験(平成28年2月7日)、一般二期入学試験(平成28年3月3日)を実施した。その結果140名が受験し、平成28年4月に78名(定員80名)の入学者を受け入れた。

教育・学修について、大学教育と4年間の円滑な学生生活の推進に向けてのガイダンスを行い、選択科目の履修登録を滞りなく実施した。この中では、本学の教育理念である人に優しいをモットーとする「技術と心のバランスの取れた人材の育成」について、時間を掛けて説明している。

又、看護学科教育課程の概要、専門職としての看護職、看護学の学び、臨地実習での学び方等については、ガイダンスとは別に時間を設けて説明し、大学における看護学の学修が理解できるようにした。また、この中では、助産学の選択について、選択の時期、選抜試験の基準等を説明し、助産師となることについての最初の動機づけを行った。

4月7日から、教養分野、専門基礎分野、専門分野の基礎看護学概論等の授業が円滑に開始している。主として教養分野の授業科目を依頼している兼任講師についても、授業が円滑に進行している。

5月9日から開始予定としている「基礎看護学実習Ⅰ」および6月20日から開始する「基礎看護学実習Ⅱ」について、「臨地実習の手引き」それぞれの「臨地実習要項」を吟味し、それを基に実習施設への説明を行っている。学生に対しては、実習オリエンテーション及び感染防止の予防接種を終了し、実習に臨む体勢が整えられた。

看護学科の運営等について、就任予定の専任教員に就任予定者説明会を通して看護学科の設置の趣旨及び目的、教育理念等の認識を深めた。平成28年4月着任の専任教員は教授5名、准教授1名、講師4名、助教4名計14名であり、それぞれの担当授業科目に円滑に携わっている。

看護学科会議を月1回開催することを決定し、4月は例外的に2回実施し、看護学科の長短期目標を明確にし、教員相互が共有して、教育活動及び研究活動に臨めるようにした。

看護学科の教授は、それぞれ大学の委員会に所属し、大学の考え方の看護学科への周知・反映、看護学科の意見の反映等に向けて活動を開始している。

地域・社会との交流・連携

平成28年4月8日に開催された看護学科会議において、以下の通り長短期目標の設定を行っている。

長期目標(平成28年度～平成31年度)

◎地域住民への健康教育活動を推進する。

短期目標(平成28年度)

◎地域への社会貢献

地域住民を対象に健康に関する公開講座及び出張講座を行う。

具体的な実施時期及び実施内容については、5月以降検討協議を行う。(平成28年度)

平成29年度

・平成29年度学生募集活動は、オープンキャンパスで現役の看護師の話聞くコーナーや看護教員による模擬授業などのイベントを6回実施、さらに学外の広報活動として大学説明会(4回)、高校模擬授業(24校)、高校教員向け説明会など学生確保に向けて積極的に活動を行い、開設2年目の本学のイメージ強化に努めた。また本学のホームページに看護学科の紹介コーナーを設けるなどの広報活動を行った。

・推薦入学試験Ⅰ期(平成28年11月6日)Ⅱ期(平成28年12月5日)一般Ⅰ期(平成29年2月5日)Ⅱ期(平成29年3月1日)およびセンター試験利用を実施した。平成29年度入学試験の看護学科入学者については、推薦Ⅰ期・Ⅱ期の手続き率は100%(40名)、一般Ⅰ期・Ⅱ期およびセンター試験の入学手続き率は32.7%(55名)であり、そのうち4名が辞退し、最終的に91名の入学者を受け入れた。

・教育・学修について、履修科目の指導及び助言は、全体の履修ガイダンスの後に履修指導担当教員が個々に指導を行った。1年次の開講科目については、設置計画に基づき全科目（必須科目36単位、選択科目4単位）を滞りなく遂行することができた。

助産師選抜時期についてのガイダンスは、入学時のオリエンテーションで実施したが、後期になってから助産師を希望する数名の学生から相談があり、助産学の教員が学習方法等について個別指導を実施した。また看護学科教務委員会分科会では、助産師教育課程の選抜に向けた検討を行っている。

・看護学科のカリキュラムは、1年前期に学生10人に看護教員一人の割合でゼミ形式の演習科目が2科目あるため、学習方法などで問題を抱えた学生への対応は比較的早期に実施できている。

・教養科目14科目（内3科目選択）は全員が履修し、単位を取得している。教養分野は「ものの見方・考え方」「生活と文化」「人間と環境」「グローバルコミュニケーション」「大学における学び」の区分から科目が成り立っているため、学生は広い視野から物事をとらえる力が備わってきている。

・入学後間もない5月12日から「病院における看護活動、療養者の生活の場である病院環境と看護の役割機能について知る」ことを目的に基礎看護学実習Ⅰを、また6月20日から「看護師と患者のコミュニケーション場面を見学し、看護場面におけるコミュニケーションが果たす役割を知る」ことを目的に基礎看護学実習Ⅱを実施した。実習開始にあたっては、科目担当教員が実習の心構えや学習行動等について事前に説明会を開催した。この時期に病院施設に入って看護師の行動を見学することは、看護専門職を目指す学生たちにとって学習意識の向上につながっていた。

・看護学科の運営については、看護学科会議を8回開催した。平成28年度の短期目標として①教育課程を滞りなく遂行する②教員の教育・研究環境を整える③地域住民への健康教育活動を推進する④リハビリテーション学科との連携を図るを掲げ、1年目に着任した14名の教員が相互に協力しながら教育と研究活動に従事した。また教授は大学の各種委員会に所属し、学内に看護学教育の理解を広める役割を担った。

・地域社会との交流・連携については、多摩センター地域包括支援センターから「さくらんぼの会(寝たきりゼロを目指す会)」の講演依頼があり、平成28年8月31日に在宅看護学講師の関川久美子が「いまからの私・健康で」のテーマで講演を行った。参加者は30名であった。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期
・平成30年1月1日 公表

b 公表方法
・大学ホームページ上に公開予定（平成30年1月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

・平成29年度に評価機関（公益財団法人日本高等教育評価機構）の評価を受審する。

（注） ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（4） 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期） (平成29年 8月31日)